

三方良しの公共事業推進 コンファレンス2008



2008. 11. 26~27
群馬県監理課建設政策室
高澤 太陽



**ぐんまワンデーレスポンスは
“24時間回答”することだけではありません！！**

目標すりあわせシート、見える化工程表作成、24時間回答、安全余裕によるマネジメントと各ステップを踏むものです。

1. ぐんまワンデーレスポンスプロジェクトのステップ

ステップ1

目標すりあわせシート
(ODSCシート)を作成する

プロジェクト名	H19 補助公共 利根川 治水対策事業
目的 (Objectives)	堤防の構造強化を図る 住民の生活及び安全確保を図る 出稼期間(何月末日)までに堤防として完成させる。
成果物 (Deliverables)	スーパー堤防 L=500m 完成書類一式 事業開始前作成のCC工程表
成功基準 (Success Criteria)	盛り土締め 評価 80点
マネジメント・リクエスト (Requests to Management)	経営幹部への要請事項を記述してください。
リスク (Risks)	工事が遅延

目的

成功基準

リスク

発注者と受注者、
上司・部下が
協同・共有

ステップ2

CCPM工程表の作成。

問題点を早期予測するための工程表を作成

No.	作業名	施工数量	単価	備考(計画)
1	作業			
2	輸送			
3	プロジェクト			

段取り八分工程表

見える化工程表

サバ抜き工程表

ステップ3

24時間回答を行う。

「24時間以内に回答する」か「回答期限を伝える」

24時間回答

ステップ4

安全余裕(バッファ)の消費を管理する
安全余裕の消費量により、対策を講じる

マネジメント

大前提

発注者と受注者、
上司・部下が
協同・共有

チームになろう！！

それぞれの上司と部下、経営者と従業員の間には壁が立っています。チームになるためには、互いの壁を取り去る必要があります。発注者と受注者の壁、上司と部下の壁、経営者と従業員の壁の3つです。3つの壁を取り去りチームになるためにはどうしたらよいのでしょうか。

私たちは一人一人生まれ育った環境も違い、思想や生き方も違います。したがって、個人的な意見も違えば感情も違うのです。こうしたものが個人の思いの壁(かめ)を作り出しているのです。メンバーが同じ思いの壁(かめ)を共有しているわけではありません。しかし、壁(かめ)の中を見せ合えば信頼関係が生まれ、お互いが理解しやすくなります。誰もが、思いの壁(かめ)を打ち破って思いの丈を打ち明ければ、バラバラな個人の思いを一つの思いの壁(かめ)に蓄積し、共有することができます。

それを理解した上で、自分を開放してください。人は自分の心身を守るために、ある程度防御的な関係を築きたがるものです。「意見が対立したら嫌だ」「指摘されたら嫌だ」などというものです。開放をしなければ、自分の持った意見を伝えることもできず、また、相手のこともわかりません。相手のことがわからないためにチームとしての共有感も生まれず、各々が自分の殻の中で仕事をするようになります。信頼のない中で良い仕事は生まれません。逆に、自分を解放すれば信頼関係が醸成され、安心感が生まれ、また、自分自身にも自信を持てるようになります。われわれは**個人とチームが相互に作用し合うチーム**を目指さなければならないのです。

・チーム = 発注者 + 受注者
(上司・部下)

信頼・安心・自信

自分を開放し意見を発散させれば、必ず誰かの意見と対立するはずですが、対立が発生したときには必ず、どちらかが得をして、どちらかが損をするというLOSEの関係が築かれています。自分ばかり、部分最適ばかりを追いかけてお互いに共倒れしてしまいます。「私の意見もあなたの意見も一理ある」として、お互いが得をする上位の考えを見つけていくことが大切です。そして、意見が出たときには個人攻撃をするのではなく、“上位の対策”を導き出すアドバイスだと思ふ必要が有ります。

請け負け→勝ち勝ち

自分の殻に閉じこもることなく知識や意識の共有を図りましょう。現場力を養う機会が圧倒的に不足し始めています。これを補うために現場に立ち向かい、**チームで現場力を養うことが、工事現場の問題解決や個人技術力向上につながる**と思いませんか。

みんなの題材



導入経緯

平成17年夏～秋

技術者アンケート(群馬県内発注者・受注者向け)
—現場の抱える問題を抽出

平成19年5月

技術力向上プログラム(VE・PI・ワンレス・研修など)
—土木技術者のあるべき姿・解決策を検討

平成20年3月

はばたけ群馬・県土整備プラン

—今後10年間の社会資本整備のやり方、何を整備するかの指針
公共事業実施方法の改善策として位置づけ

技術者アンケート(群馬県内発注者・受注者向け)から

工期延期が多い

繰り越し工事が多い

利益が出ない。

サービス工事が多い

余裕がない。

お互いを理解していない

段取りが共有できていない

技術力が低下している。

適切な回答がない。

経験を積める場がない。

環境の激変
～われわれの関係～

われわれの間には良い意味での信頼関係が構築されていたので、近年、国及び地方自治体の財政難や、談合・汚職・偽装工事など、われわれをとりまく環境は大きく変化しています。

発注者に関わること

- ・ 工期延期が多い
- ・ 繰り越し工事が多い

- ・ 仕様の段取りを共有していない
- ・ 技術力が低下している
- ・ 協議しても適切な回答がない

- ⑥ 設計の根拠となる基本図が不明
- ⑦ 上司や先輩からの指導が不足している
- ⑧ 景観・環境に配慮した設計ができない
- ⑨ 自分のやりたいことができない
- ⑩ 現場での経験が不足している

発注者

工期延期が多くなる
繰越工事が多くなる
受注者と仕事の段取り
が共有できなくなる
技術力が低下する

住民

信頼を得られない
イメージが悪化する

受注者

利益が出なくなる
サービス工事が多くなる
発注者と仕事の段取り
が共有できなくなる
技術力が低下する

やりがいなくなる
信頼関係が喪失する

発注者・受注者

余裕がない

お互いの立場を理解していない

上司・先輩に質問しづらい

協議しても適切な回答がない

経験を積める場が少なくなった

発注者・受注者

・発注者の問題

・受注者の問題

・両者の問題

安心・安全
・地域活性
ありがとう！！



納税者良し！！！！

行政と企業が協力して
納税者のために



行政のためにもなる
企業のためにもなる

「三方良し」 の公共事業



企業良し！！！！



行政良し！！！！

利益・イメージアップ
やったー！！

信頼・責任
やりがい・はりあい！！

工期短縮・技術力向上で「三方良し」の公共事業

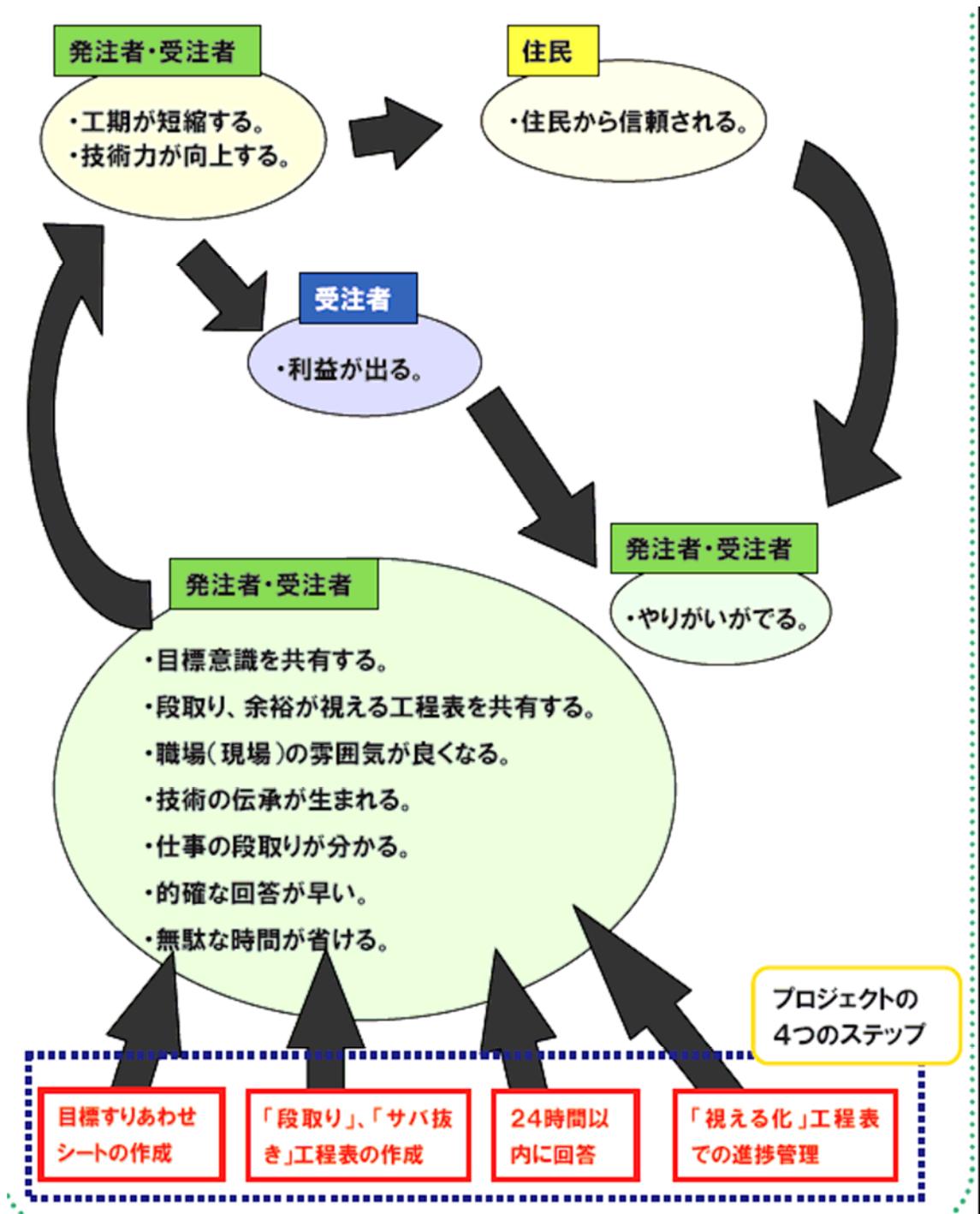
「三方良し」の公共事業の意味は理解できましたか？どんなことを実行したらよいのでしょうか。いろいろありそうですが、なかなか具体的なことが思い浮かびません。

公共事業の工事では、所定の工事期間に完成せず、毎年の多くの工事が繰越工事となっています。そこで、技術力の向上を図りながら、所定の工事期間に工事を完成させ、繰越工事を減らすこと、「工期短縮・技術力向上」を目標としてみましよう。（もちろん、安全の確保と品質確保は前提です。）

この「工期短縮・技術力向上」の目標の良いところは、

- ・ やる気さえあれば誰でも挑戦できる。（誰にでも理解できる課題）
- ・ 成果がはっきりと出る。（目標が明確）
- ・ 困る人がいない。（「三方良し」）

などが挙げられます。



・発注者のメリット

・受注者のメリット

・両者のメリット

H19年度試行結果を 紹介します。

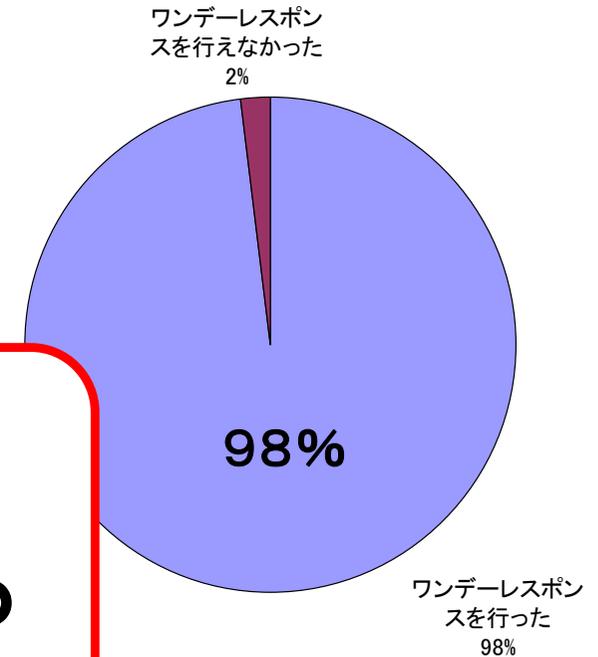
—発注者はワンレスをして、受注者はCCPMをする。
CCPMの知識、工程表は共有。

対象工事13件

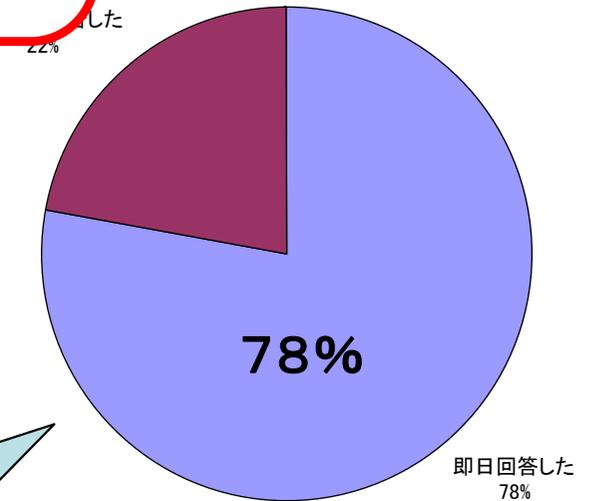
ワンデーレスポンスの試行結果 アンケート

業者からの質問に対してワンデーレスポンス(24時間以内に何かしらの回答)を行いましたか？

回答が早い。



ワンデーレスポンスは即日回答or回答日予告？



約8割が即日回答することができた

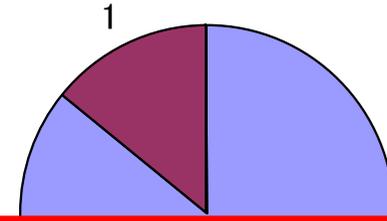
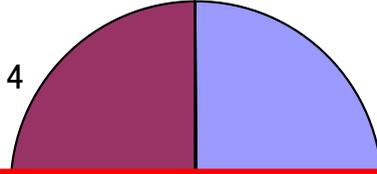
質問5

発注者と受注者間のコミュニケーションは向上しましたか？

発注者側監督員

部下

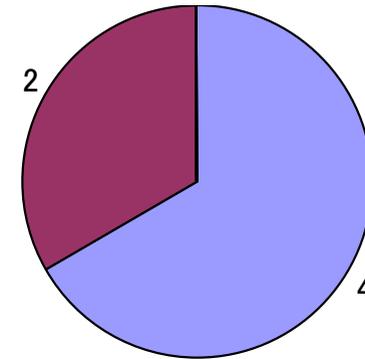
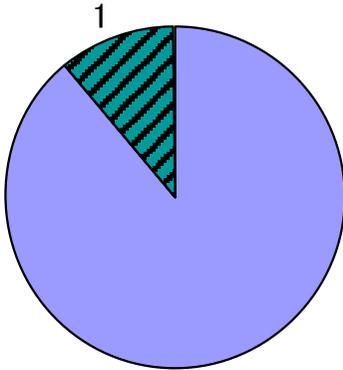
受注者側現場代理人



発注者受注者の
コミュニケーションがUP。

発注者

受注者



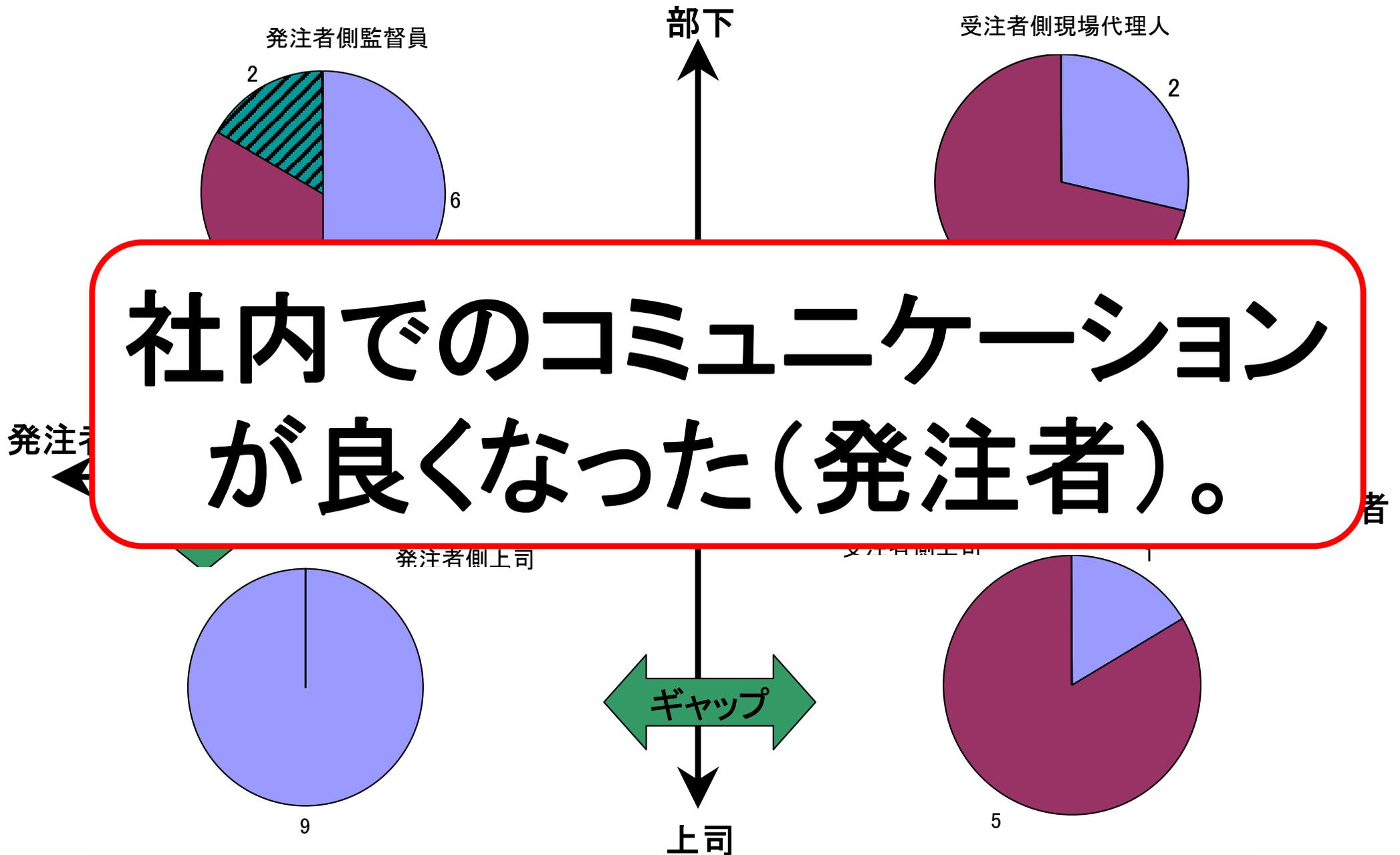
上司

現場代理人はコミュニケーション向上を感じている

質問6

(発注者) 監督員から報連相、上司の迅速な対応は行われましたか？

(受注者) 社内での迅速な対応はされましたか？



発注者側は監督員と上司で認識の違いがある
受注者側の対応は変化が見られなかった

H19ぐんまワンデーレスポンスプロジェクト試行結果

No	事業内容		契約日	当初契約完成期日	変更契約完成期日	完成日	契約工期と完成期日	変更金額	評定点
	事業名	路・河川・地区名							
1	補助公共 雪寒対策事業（防雪）分割2号	（国）120号	H19.8.21	3/14	—	2008/2/13	-31	9019500	79
2	補助公共 火山砂防事業	中ッ沢	H19.9.11	3/28	6/30				
3	補助公共 地すべり対策事業	生須地区	H19.6.8	12/14	—	H19.11.5	-39		78
4	補助公共 火山砂防事業								71
5	補助公共 道路改築事業							201000	72
6	補助公共 総合流域防災事業（通常							31500	74
7	補助公共 地方道路交付金事業								74
8	補助公共 流域下水道事業							—	
9	補助公共 広域一般河川改修								75
10	単独公共 道路維持修繕事業（道路法面崩壊対 策）								77
11	補助公共 地方道路交付金事業（電線共同溝）	（主）高崎駒形線	H19.9.21	3/14	—	H20.3.10	-4		74
12	補助公共 地方道路整備臨時交付金事業（街路）	3.2.2東毛幹線	H19.4.13	12/14	3/15	H20.3.15	92	11770500	84
13	補助公共 地方道路交付金（交安）分割2号	（主）大間々世良田線	H19.9.27	2/25	3/10	H20.3.10	14	-672000	71
			工期延期を行った		6件 / 13件	平均	3		75.36

3割が工期内検査。
評定点が上がった。

試行13件のうち6件が工期延期を行った

試行13件中4件が契約工期より早く完成

工期延期を行った6件のうち、4件は大きな増工

・4 / 13件が工期内。73点→75点

平均成績評点は75点を超えている

H19試行工事のアンケートより

⑦

今回の試行は、受・発注者両者にやる気を起こさせる良いきっかけになったと思いますし、受注者と発注者がチームとして仕事をする事の再確認ができました。

しかし、CCPM工程表などの手段が議論の中心になったら、ワンデーレスポンスは失敗すると思います。

以前より感じていますが、発注者は「業者は言うことを聞くもので、指導するもの。」だとか「我々は仕事をあげているんだ。」といった気持ちがどこかにあるようで、この気持ちが現場を悪くする最大の要因と考えています。

発注者には発注者の責任があり、受注者には受注者の責任があるのは当然ですが、上からの目線で接する監督員にいい現場は出来ないと思います。少なくとも、自分の現場はいい現場にしたいですし、一緒に仕事をさせてもらった業者には儲けてもらいたいですし、今後も伸びてもらいたいです。監理課の方々は苦勞していると思いますが、非常に良い経験をさせてもらえました。

④

工程管理の中で、内部コミュニケーションが重要となり、その中で
技術伝承が可能となる。ワンデーレスポンスは本来の技術指導の姿
であり、公共事業の質の低下を心配している中で重要な手段だと思います。
請負者の利便性を上げたいのは、この業界は健全な経営とあって
質の悪い業者を相手に発注者は苦勞が続くと思う。工事ごとにワンデー
を取り入れ、早期の課題解決を県民に提供できるようにご協力ありがとうございました。
のも、私達の仕事だと思います。

H20年度試行へ

—発注者はワンレスとCCPMをする。受注者も参加。
CCPMの知識、工程表は共有。

対象工事26件

- ①ガイドラインの作成
- ②周知活動 フォーラム、説明会
- ③職員研修
- ④CCPM工程表を発注者が引く
- ⑤今後の戦略を構築する



①ガイドラインの作成



②周知活動 フォーラム



②周知活動 説明会



③職員研修

④CCPM工程表を発注者が引く。

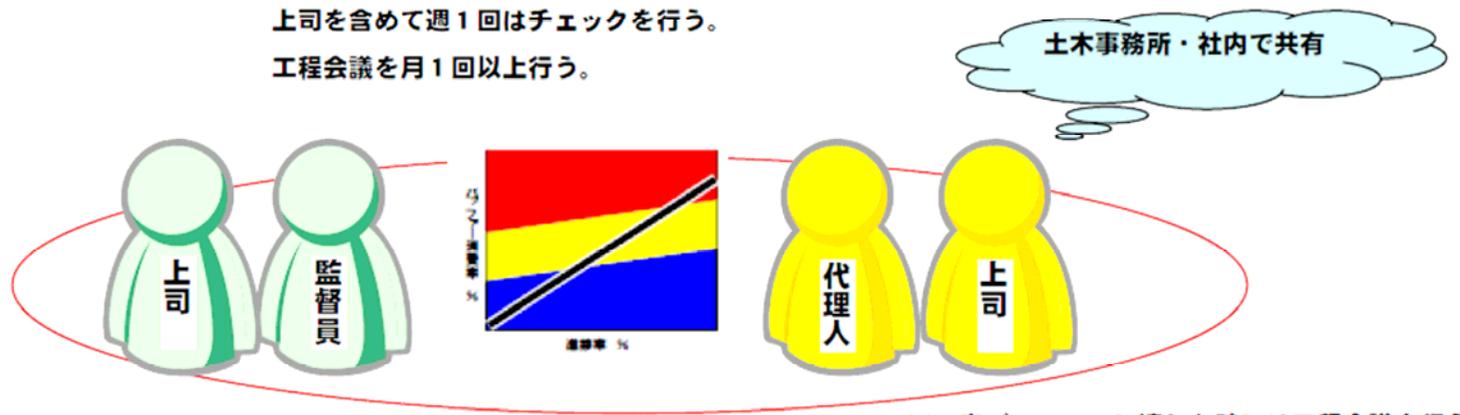
進捗管理

4. 進捗管理



5. 情報の共有

上司を含めて週1回はチェックを行う。
工程会議を月1回以上行う。



⑤今後の戦略を構築する。

ワンデーレスポンスプロジェクトの実行により、抽出される様々な問題点を集中討議し、その解決策と、群馬県に合った形でのTOC-CCPMのあり方を模索するワークショップを開催。TOC思考プロセスを使用予定。

繰越工事が大幅に減少

群馬県発注の土木工事で工期短縮 ワンデーレスポンスプロジェクト ガイドライン策定から3年

群馬県が工期短縮・技術力の向上などを目標に同プロジェクトを開始し、ガイドライン策定から3年が経過した。同県によれば、平成22年度の対象工事は211箇所まで拡大している。

公共工事では、当初の工事期間を延長し、年度をまたぐ繰越工事が多く、建設業界内でも半ば、通例となっている。

今回の対象工事で見ると、211工事のうち205工事が年度内に完成しており、年度を繰越した6工事も既に4月中に完成しているという。

現場での声を行政、業者、地域住民にそれぞれレポートした。

【群馬県A土木事務所監督職員】

これまでは、繰越工事が当たり前だと思っていた。目的意識を持って業者と一緒にやれば、工事が年度内に完成できることが体験できた。これまで業者任せだった工程管理と一緒にやったり、先輩職員と議論したり、いろいろと学ぶことも多かった。工事監督について自信が持てるようになった気がする。

この経験を次の工事には是非活かしていきたい。

【B建設会社現場代理人】

最初は本当に工期短縮ができるのか、半信半疑だった。工期を短縮することで、現場の管理費を大幅に節約できて、社長にほめられた。何よりも住民の方々から「約束どおりの工期でできたね。」とほめられたことがうれしかった。監督員との絆も深まった。今回の工事を通じて、身につけた様々なノウハウは私にとって大きな宝となった。

【工事現場付近の住民Cさん】

これまでは、当初の工事看板に書かれた工事期間を何度も書き換えていた。本当はいつ終わるのが分からなかった。約束を守ることは、役所として大切なことだ。今回の工事は約束より早く終わり、便利になった。周りに住んでいる者にとってもいろいろ助かった。

同県ではこのプロジェクトを別名「三方良しの公共事業」と呼んでいる。このプロジェクトが土木の現場に根付き、新しい息吹を吹き込むこめるか、今後も見守っていきたい。

見えない壁

〒371-8570

前橋市大手町1-1-1

ぐんまワンデーレスポンスプロジェクト事務局

群馬県県土整備部監理課建設政策室

TEL027-226-3531

FAX027-224-1426

Mail: gijutu-kikaku@pref.gunma.jp

